

やすらぎだより

3
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

コラム第141号

「あをによし」

施設長 植田 誠



厳かな開会式典の冒頭、近畿各府県をお迎えする開催県を代表する一人として、私は歓迎の挨拶を仰せつかった。

‘あをによし 奈良の都は・・・’

覚えたての歌をひけらかすつもりはなかった。ただこの奈良の地を言葉として表そうと無い知恵を絞ってその場に臨んだつもりだったが、所詮にわか仕込みでは事はうまく運ぶはずはない。

張りつめた会場の空気に飲まれ、‘都は’のあとが出てこなかった。一瞬のざわめきが起る直前、何事もなかったかの様に型通りの挨拶に終始したが、会場内にいた200人ほどの大半は不安そうでありながらも温かく見守る目を傾けていただいた。

開会式と名の付くものは、とかく形式を重んじながら緊張感漂う中で始まるものだ。冒頭挨拶ともなると空気も和まず、何よりも平穩無事にことを消化していくことが求められるのが当たり前、いわんや関西だからと言って笑いも必要ではなく求められてもいない。

わかってはいたが、技量もわきまえず爪痕を残したがる私に神様は戒めを与えていただいたのであろう。スピーチの機会が多少増えてくると、慣れが油断を呼び努力することを忘れさせる。まさに慢心への忠告と悟らせていただく機会となった。

ご高齢の日本女性は、古典文学が普段の生活の中にも溶け込まれていたと記憶する。万葉集などの歌や俳句等の詞を、今も昔も口を衝いて出られる。興味の乏しい私からすると、それは驚きでもある。そう言えば、和歌好きの母の影響か昔我が家では百人一首遊びが正月の定番であった。今から思うと、それも驚きである。

そんな私がこれからは口を衝いて出る歌が一つ誕生した。上の句だけではなく五句すべてが胸に収まった。

‘あをによし 奈良の都は咲く花の にほふがごとく今盛りなり’



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- | | |
|------------------|----------------|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ |
| ○在宅サービス事業所 | ○介護予防関連事業 |
| 居宅介護支援事業所 | ○グループホーム むつみあい |
| 訪問介護事業 | ○天理市ひとり暮らし |
| 訪問入浴介護事業 | 高齢者世帯等見守り事業 |
| ○短期入所生活介護事業 | ○低所得高齢者等住まい・ |
| ○在宅介護支援センター | 生活支援モデル事業 |
| ○天理市東部地域包括支援センター | |